



すべての子どもが 安心して、守られるために



宗教者は時としても最も影響力があり、子どもや社会の意思決定に直接かかわる場面も多くあります。一方で、子どもに危険をおよぼす可能性のある伝統的な慣習やジェンダーの不平等、教育や保健などの不可欠なサービスを利用できるかどうかの大きなカギを握る存在でもあります。

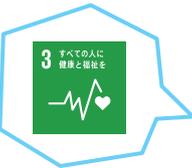
立正佼成会と世界宗教者平和会議(RfP)は2010年からグローバルのパートナーシップを結び、紛争や暴力の影響を受けている子どもの保護、子どもの健全な成長を促すための行動変容に取り組んでいます。2018年には、バンコクで会議を開催し、『子どものための宗教と前向きな行動変容:FPCC』に向けて、30の国と地域から宗教者や政府関係者など116人が集結しました。宗教や社会の役割の垣根を越えて、子どもたちを守るためのネットワークづくり、母乳育児や予防接種など前向きな行動を促すためのメッセージを届ける活動を行っています。

新型コロナウイルス(COVID-19)への対応

2020年2月、COVID-19の世界的な危機状況に対応するため、子ども、家族や地域のための前向きな行動変容のための宗教(FPCC)は速やかに、COVID-19の危機対応のために行動計画を作成しました。主に、これまでの取り組みにCOVID-19のコンテンツを踏まえ、オンラインでのミーティングの実施やデジタルプラットフォームを活用した宗教の教義や聖典に即した諸宗教のコミュニケーションや行動パッケージの策定、拡散などを目指しています。

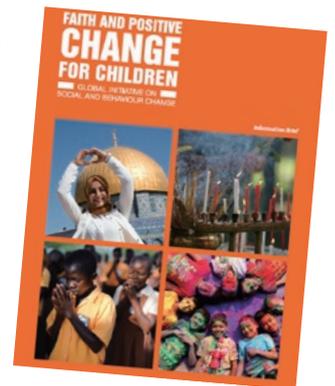


© UNICEF/UNI322703/Haro



FPCC冊子の作成

子どもが抱える危険や課題に宗教の力を最大限に活用し、すべての子どもの権利を守るために、ユニセフは冊子を作成。2018年の会議で合意した内容を踏まえ、宗教の垣根を越えて同じ方向を向いていけるよう、冊子を作成しました。



ケリガ・マクドナルド
ユニセフ本部
開発のためのコミュニケーション
シニアアドバイザー

立正佼成会の皆さまのご支援によって実現しているこのパートナーシップは、横断的な取り組みで宗教や文化の垣根を超えてあらゆる人を巻き込み、宗教指導者たちが地域で対話を重ねることに重点を置いています。また、保健、栄養、教育、子どもの保護やジェンダー平等などの取り組みを通じてSDGsにも貢献し、SDGsの根幹である「人」を中心に据えて取り組むことで、より平和で誰一人取り残さない社会の実現を目指していきます。

2018年に実施された会議での学びを最大化し、諸宗教の取り組みに関わった関係者の声を反映させるため、アフリカで試験的にWorkRocksを開催しました。WorkRocksの「ロック」とは「基礎」や「土台」を意味し、地域住民が宗教者と対話を重ねることで、精神的な土台を築き、自発的に行動変容を起こすことを目指したワークショップです。会議での学びを各地域の慣習や文化に即して実施し、FPCCを国レベルで実践するために、これまでに以下の5国で取り組みました。



南スーダン



南スーダンでは2019年、宗教者と協力して教会に訪れた4万3,000人の信者にコレラ、エボラ、はしか、ポリオなどの予防についてメッセージを届けました。



© UNICEF South Sudan/2019/Chol



© UNICEF South Sudan/2019/Chol

マラウイ



© UNICEF/RfP/Malawi/2019

マラウイは古くから宗教者の連携が築かれ、すでに多くの宗教者が力を合わせて子どもの課題に取り組んでいる国の1つです。アフリカで試験的に始まったこのWorkRocksにも2番目に参加を表明しました。WorkRocksは50人の宗教指導者、政府関係者やユニセフの関係者、さらに10人の海外からの参加者を迎えて、既存の取り組みをさらに、前向きな行動変容にしていくか話し合いました。

リベリア



© UNICEF/RfP/Liberia/2019

宗教協力の歴史が長いリベリアでは、具体的に「子ども時代の歩み」として、人生のグラフを描き、何歳のころにどんな困難があったか（お金がなくて学校に通えなかった、安全な水が飲めなかったなど）、それをどんなきっかけで乗り越えたか、など子ども時代の経験を共有し、実際に子どもが直面する課題と宗教者としてどうサポートすべきかなど、具体的に議論しました。

カメルーン



© UNICEF/RfP/Cameroon/2019

カメルーンのWorkRocksはこれまでの知見を持ち寄り、宗教の垣根を越えて協力するネットワークづくりを行いました。これまでの概念の見直し、子どもを中心に置いた考え方、各宗教からの児童婚などの課題への対応アプローチを持ち寄り、方向性が定められました。

ニジェール



© UNICEF Niger/2019/Islamane

ニジェールではバンコクでの会議に引き続き、宗教者のワークショップを国内ではじめて実施しました。会議では、宗教者が、子どもの教育の機会の確保、子どもの保護の意識の啓発、保健、栄養、水と衛生などの基本的な社会サービスの利用など取り組むべき課題について合意しました。



1 貧困をなくそう



4 質の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を実現しよう



16 平和と公正をすべての人に

リベリアってどんな国?

71人



1,000件の出生に対して、5歳の誕生日を迎えられない子どもの数。

8,000人



エボラ出血熱の流行(2014～2016年)によって孤児となった子ども。

96%



年間2,000件に対して、女性の性的暴力の被害数。そのうち58%は18歳未満の女の子。



(データはすべて『世界子供白書2019』、MoGCSPIによる報告より)

すべての子どもが守られるために

新型コロナウイルス(COVID-19)によって影響を受ける子どもたち

リベリアでは3月に初めてCOVID-19の感染者が確認されて以降、1,426人の感染が確認されています。(11月1日時点、WHOデータより) リベリアでは3月から学校が閉鎖され、140万人の子どもたちが影響を受けています。ユニセフは子どもたちの遠隔学習を支援するほか、とくに西アフリカの高等学校の証明書試験(WASSCE)準備のため開校した全国707の高校生41,526人のために学習教材の作成支援と学校での安全を守るために学校の管理職や教員に向けた研修を行いました。



© UNICEF/Liberia/2020

徐々に学校も再開し、新しい日常の中での生活がはじまりつつある。

ユニセフの活動

リベリアの子どもへの暴力・虐待の防止・対応のための地域制度、ならびに子どもの保護制度の強化

- 脆弱な立場に立たされている子どもが尊厳をもって扱われ、適切なケアを確実に受けることができ、子ども自身のニーズが満たされ、最善の利益が尽くされる
- リベリア諸宗教評議会(IRCL)に報告された全ての子どもが事例管理サービスを利用する
- 虐待やネグレクトを受けているおそれのあるすべての子どもがIRCLとパートナー団体によって運営されている地域に根差した予防と対応の取り組みを利用できる

COVID-19禍でも、ユニセフとIRCLは、すべての子どもの権利が守られるように取り組んだ。



© UNICEF/Liberia/2020



© 佼成出版社



© 佼成出版社



© 佼成出版社



出生登録キャンペーンですべての子どもに命のパスポートを!

すべての子どもたちは、生まれながらにして出生が届けられ、国籍を有し、その証明の元で必要な保健サービスを利用することができる権利をもっています。正式な出生登録がないと子どもは教育や保健ケア、社会保障といった重要なサービスを受けられなくなってしまう可能性があります。出生登録されている子どもの数は世界で大幅に増えているものの、1億6,600万人の5歳未満の子ども(4人に1人)がまだ登録されておらず、必要なサービスを利用することができません。リベリアでは、わずか25%の子どもしか出生登録を行っていません。ユニセフとIRCLは出生登録促進キャンペーンを行い、8,917人の新生児が出生証明書を受け取ることが出来ました。

2020年10月にニンバ郡のココパ・ゴム農園とグランド・ゲダ郡で行われた出生登録キャンペーンの様子をご紹介します。



©UNICEF/Liberia/2020



©UNICEF/Liberia/2020



©UNICEF/Liberia/2020

子どもの出生証明書を
受け取った
母親たち



©UNICEF/Liberia/2020

出生登録をする
スタッフ

SHOT ON A56
WITH DUAL CAMERA

母親たちに出生
証明書を渡すスタッフ

出生証明書があれば、子どもたちは自分たちの年や出生地を知ることができるし、必要になったらパスポートも簡単に作れるのよ。

登録に来たドリティさん



©UNICEF/Liberia/2020

グランド・ゲダ郡
で母親たちに
出生証明書を渡す
登録所のスタッフ

いちじき
一食を捧げる運動wakachiai
sharing meals for friends

We Support





シエラレオネってどんな国?

105人

1,000件の出生に対して、5歳の誕生日を迎えられない子どもの数。

60%

マラリアから守るための殺虫剤処理をほどこした蚊帳の下で眠る子どもの割合。

48%

小学校を卒業する女の子の割合。さらに、中学校に進学する女の子は僅か29%。



(データはすべて『世界子供白書2019』より)

子どもにやさしい社会を目指して!

新型コロナウイルス(COVID-19)禍でも大切なメッセージを届ける!

シエラレオネでもCOVID-19が感染拡大し、11月1日時点で2,366人の感染が確認されています。(11月1日付WHOデータ)ユニセフは8月末までに、最もCOVID-19の影響を受けた8つの地域1,200校で2,400の手洗い所の設置や衛生用品(バケツ、防水シート、石鹸、タブなど)を提供しました。また、適切な情報を伝えるために宗教指導者や地域指導者に研修を行い、COVID-19禍でも定期的な予防接種を行うことや、子どもの保護のメッセージを伝えました。



フリータウンで啓発活動のボランティアを行うサイドゥさん(左)。

長い間地域に根差してきたので、住民の皆さんもよく話を聞いてくれます。COVID-19禍でも産前ケアや予防接種など子どもに必要なサービスを受けよう、家庭を回ってメッセージを届けています。

自分の声を届ける! Uレポート

ユニセフは、2016年から、立正佼成会様のご支援でシエラレオネ諸宗教評議会(IRCSL)とパートナーシップに取り組んでいます。これまで『Uレポート*』を活用して、子どもがより健康で安全に成長できる環境について意識調査や啓発活動を行ってきました。2019年9月に試験的に実施したUレポートでは以下のことが明らかになりました。

- 毎週の説教では、89%が適切な手洗いの重要性について言及した
- 86%が児童婚に反対した
- 77%が学校での子どもに対する暴力について言及した
- 85%が全母乳育児の有効性について言及した



©UNICEF/Sierra Leone/2019

集会で完全母乳育児について宗教指導者のメッセージに耳を傾ける女性たち(左)。

UレポートはCOVID-19禍でも大活躍! 感染予防のための手洗いなどのメッセージを届けています(右)。



© UNICEF/UNI353841/Dejongh

*ユニセフが世界中で使用している若者向けのデジタルプラットフォームです。若者に対して世論調査を行い、彼らに影響を与える課題や決定についての見解を求めます。シエラレオネでは、宗教指導者がユニセフの研修で学んだことをそれぞれの宗教の集会でどのように発信しているか、住民目線で確認し、啓発メッセージを回答者に届けています。



ミャンマーってどんな国？



紛争や自然災害の影響を受け、人道支援を必要としている子ども。



貧困下での生活を強いられている子ども。



自宅に安全で改善されたトイレがない生活を余儀なくされている子ども。



(データはすべて UNICEFミャンマー事務所HPより)

ミャンマー支援事業、あたらしくスタートします！

紛争の影響を受けている子どもを守る

カチン州はミャンマーの1番北に位置する州で、最も支援が届きにくい地域の1つです。また、ラカイン州には現在でも国籍を持たないロヒンギャが多く住んでいます。アクセスが制限されていること、情勢が不安定であること、支援地が僻地である事が、命を守る為のユニセフの支援を届ける妨げになっています。そういった場所へ支援を届けるため、ユニセフとミャンマー諸宗教評議会(IRCM)は2019年より以下に取り組んでいます。

- カチン州、およびラカイン州の紛争の影響を受けている地域で、宗教に配慮した子どもの保護プログラムを強化する
- より子どもが守られるための行動や、良い影響を与える前向きな社会規範を浸透させるために宗教コミュニティと連携する
- 責任をもってニーズに対応できるプログラムを策定するための、地域住民とのフィードバックの仕組みの策定

カチン州の親子。すべての子どもが笑顔で過ごせるように!



宗教指導者たちが集い、子どもを中心に据えた平和を呼びかけます。



カチン州の国内避難民向けの機織りのワークショップに参加した女の子。

新型コロナウイルス(COVID-19)禍でも状況やニーズに即したサービスを

ミャンマーでもCOVID-19が感染拡大し、これまでに52,706人の感染が確認されています。(11月1日付WHOデータ) ユニセフは病院や検疫所で、人との距離を保つことや、手洗いなどの重要なメッセージを17の民族の言語に対応してポスターを580万枚作成するなど、地域住民の置かれている状況やニーズに即したメッセージを届けています。



グアテマラってどんな国？



1,000件の出生に対して、5歳の誕生日を迎えられない子どもの数。



10万件の出生に対して、妊産婦が命を落とす数。



5歳未満の慢性栄養不良に苦しむ子どもたち。



(データはすべて『世界子供白書2019』より)

たくさんのご支援、ありがとうございました！

- 6つの主要大学で、栄養学の授業に母乳育児コースを追加。361人の栄養学の学生たちに十分な母乳育児の知識を伝えました。
- 27,157人のお母さんに母乳とCOVID-19の冊子を提供。COVID-19の影響を正しく学び、赤ちゃんの成長の大切な1日1日を安心して過ごせるよう、呼びかけました。



SDGsに貢献しました

- 4,284人の医療関係者が母乳育児について研修を受けました。
- 15の病院、11の保健センターが「赤ちゃんにやさしい病院/保健センター」に認定されました。



たくさんのお母さん、赤ちゃん、お母さん、助産師さんが笑顔に！



ベルタさん

上の子どもは混合ミルクで育てましたが、ミルクを飲んでくれず、大きくなりませんでした。2人目のときは保健センターのスタッフの方に母乳育児を教えてもらったおかげで、下の子どもは元気に育っています。

私は4人子どもがいますが、上の2人は完全母乳を知らずに育てたため、慢性栄養不良でいつも体調が悪かったです。3人目の出産のときにベルタさんが母乳育児を教えてくれたおかげで、下の2人は病気もなく元気に育っています。



ロサさん



©UNICEF/UNI235510/Willocq

病気への抵抗力が弱い赤ちゃんにとって、母乳は免疫力を高めしてくれる理想的な栄養源です。特に産後すぐの初乳は、豊富な栄養と、細菌などから赤ちゃんを守るための免疫成分がたっぷり含まれており、「黄金のミルク」とも言われています。COVID-19禍でも、赤ちゃんによっては母乳が何よりの予防接種です。

6年間取り組んできたグアテマラの「はじめの1000日プロジェクト」は、皆さまのご支援によって多くの成果をお母さんと赤ちゃんに届けることができました。立正佼成会によるご支援は一区切りですが、ユニセフ・グアテマラ事務所は引き続き、グアテマラの子どもたちが健康に成長できるように、活動に取り組んで参ります。



新型コロナウイルス (COVID-19) によって さらに脆弱な立場に置かれる子どもたち

グアテマラは3月に最初のケースが確認されて以来、107,939件の感染が確認されています。(11月1日時点、WHOデータ) グアテマラは国内に保健省が管轄する医療機関が24しかなく、また、国内でも民族ごとに言語や習慣が異なること、周辺国での感染者が国境を超えることなどの要因が重なり、一気に感染が広まりました。ユニセフは政府とともに、感染拡大を抑えるために、どういった場合にリスクがあるのか、どういう行為を避けるべきかなどの啓発活動、感染者の尊厳やトラウマからの保護、基本的なサービスの利用の機会の確保に取り組みました。



© UNICEF/UNI328547/Volpe

学校の閉鎖期間中、保存食を生徒の家庭に配布。栄養問題が深刻なグアテマラでは、家庭での栄養ケアも大切です。

母乳を通じてCOVID-19が感染するなどの誤った認識のため、母乳育児を行う母親が減る状況が見受けられました。そのため、スペイン語とマヤ語で母乳に関する正しいメッセージを広めるために、リーフレットを作成しました。



©UNICEF/Guatemala/2020

COVID-19だからこそ、 基本的なケアが大切!

COVID-19によって多くの医療機関は通常の疾患や病気に対応する余裕がなくなり、また、感染予防のメッセージが広がりましたが、グアテマラは子どもの半分以上が栄養不良の国です。こういったときこそ、基本的なケアが欠かせません。

立正佼成会の 皆さまへ



こんな道をずっと歩いていくことも! 「誰ひとり残さない」ために、どこまでも行きます!

こんにちは、マリア・クラウディアです。ユニセフ・グアテマラ事務所は立正佼成会の皆さまのご支援に感謝申し上げます。皆さまのご支援のおかげで、最も脆弱な地域の保護者、助産師や保健師とともに、妊産婦と子どもの栄養と保健を改善させることが出来ました。

課題も多く、道のりは平たんではないですが、皆さまのように寄り添ってご支援してくださる方がいる、1人じゃない、と思えることが、私たちにとっても大きな励みになりました。グアテマラの子どもに代わって、心より御礼申し上げます。

ユニセフ・グアテマラ事務所 栄養担当官



© UNICEF/Guatemala/2020

Thanks to Rishso Kosei-Kai from Guatemala!!